

手賀沼での外来水生植物の繁茂・防除の足跡 2018 年

半沢裕子¹⁾，八楯雅子¹⁾，中野一字¹⁾，林 紀男²⁾

1)美しい手賀沼を愛する市民の連合会，2)千葉県立中央博物館

手賀沼でナガエツルノゲイトウ(以下ナガエ)とオオバナミズキンバイ(以下オオバナ)が猛威を振っていることは，2018年2月の千葉県生物学会でも報告を行った。今年は同沼の2018年度の繁茂状況について主に報告する。

2018年2月17日:冬季の状況を調査。両植物の枯れた色の違いが顕著で容易に判別でき，オオバナが広がっていることを確認。枯れた植物体に緑色の部分があり，芽吹きが準備されていること判明。2017年11月に大陸状をなしていた第二機場前の大群落は沖側中心部が流失。

4月2日:大陸群落近辺にばらけた小群落が漂流・漂着。

9月23日:外来水生植物駆除体験講座時の見学会で，手賀沼公園ボート店棧橋前が全面的に両植物で埋まっているのを確認。9月27日:手賀沼西側北岸(根戸新田～我孫子新田)のヨシ帯が1年前より著しく衰退していることを確認。

10月31日:美手連，建設業会，県，市などが協働する外来水生植物駆除の第3回目を実施。大津川河口ヒドリ橋兩岸の群落を駆除。重機を使用し，57名が3時間超の駆除を行って対象群落はすべて駆除。しかし，全体として見ればごく一部と痛感。この時，ヨシの根元を観察し，ナガエの硬い茎がヨシの根元を縫って縦横に入り込み，多数の節の一つ一つからヒゲ根を発生させる状況を確認。ツル状の茎でヨシの根方をごんじがらめにし，ヒゲ根で根方周辺の養分を吸い取り，ヨシを衰退させていることが推定された。

11月8日:手賀沼西側調査。ナガエ先端にオオバナが繁茂し，ヨシの衰退を再度確認。手賀沼公園地先西側の群落ではオオバナがキタカミナリハムシに食害されているのを確認。昨年も巨大化していた南岸の花火台船周辺では，混生群落がさらに高密度に広範囲に生長。新たな外来水生植物アマゾンチカガミも確認。第二機場前は今年も大陸化していたが，台風で一部剥離した模様。大堀川，大津川の河口は兩岸とも両植物に埋め尽くされていた。

両植物の繁茂は，市民が駆除できる範囲を超えており，今後は行政と連携した大掛かりな防除が必須と考えられた。

※半沢裕子・八楯雅子・中野一字・林 紀男. 2019. 手賀沼でオオバナミズキンバイが繁茂域拡大. 千葉生物誌. 68(1): 45. より引用転載